

西諸県郡市畜産販売農業協同組合連合会が設立 75 周年を迎える

2月4日、西諸県郡市畜産販売農業協同組合連合会 75 周年・市場移転 40 周年・成畜市場開設 60 周年記念式典が同市場で開催されました。同連合会の寺師幸則代表理事会長は「75 周年を迎えることができたのは組合員をはじめ地域の皆さまのおかげ。今まで以上に切磋琢磨し西諸地域の農業振興と事業構築に挑戦する」と話しました。



同連合会は 1950 年（昭和 25 年）発足。今年 3 月には JA みやざきに包括継承されますが、引き続き西諸地域の家畜市場としての役割を担います

難局乗り越え畜産の更なる発展を約 330 人が参加し振興大会開催

2月4日、文化会館で「小林市畜産振興大会 2025」が開かれました。飼料価格の高騰や子牛価格の低迷など厳しい状況が続く中で、関係者一丸となって難局を乗り越えようと開催されたもので、畜産農家など約 330 人が参加。専門家による講演会が行われ、参加者は小林産子牛の優位性と和牛の事故防止対策などについて理解を深めました。



大会では、安心・安全な畜産物の提供や経営の安定化、地域ぐるみでの防疫に取り組むなどとする大会宣言を採択。より一層の畜産の振興を誓いました

トップレベルのパフォーマンス堪能 小学校 3 校の合同スクールコンサート

1月30日、文化会館で南小・小林小・永久津小の 3 校合同スクールコンサートが開かれました。3 校区のまちづくり協議会が協力して開催し、全国大会 23 年連続出場を果たすなど全国トップレベルの実力を誇る専修大学熊本玉名高校「Ventures」が出演。参加した児童は、迫力ある演奏や旗を使った鮮やかなパフォーマンスを楽しみました。



一糸乱れぬ庄巻のパフォーマンスを披露した Ventures。永久津小 6 年の岡原理紗さんは「息が合っていてすごい。もっと観たかった」と話していました

企業版ふるさと納税制度を活用し 株式会社 NPK が 500 万円寄付

1月29日、警備事業や小林生駒高原葡萄酒工房でのワイン醸造・販売などを手がける、株式会社 NPK（児玉和博代表取締役社長）が市に 500 万円を寄付しました。これは企業版ふるさと納税制度を活用したもので、寄付金は同社の意向により希望する人が安心して子どもを産み育てられる環境をつくる事業に活用されます。



児玉代表は「全国で問題になっている人口減少を食い止めること、そして子どもが生まれ健康に育つ。そういう環境に少しでも寄与できれば」と話しました

水間さん・立元さんペア ソフトテニスの全国大会へ出場

1月28日、うっちゃまソフトテニススポーツ少年団の水間蒼二郎さん（小林小 5 年）と立元幹大さん（南小 5 年）が市長を表敬訪問し、3月30日、31日に千葉県で開催される「第 24 回全国小学生ソフトテニス大会」への出場を報告しました。立元さんは「決勝トーナメントに進み、上位を目指す」と大会への意気込みを話しました。



2人は、都市部で 12 月 8 日に行われた予選会に出場。予選リーグ 1 位で決勝トーナメントに進み、ベスト 4 に入ったことで全国出場を勝ち取りました

県公民館大会で活動の意義を再確認

1月25日、宮崎県公民館大会が文化会館で開催されました。地域づくりや生涯学習の拠点である公民館の未来を考えようと県公民館連合会が主催。事例発表では、野尻の小坂自治公民館による地域交流の取り組みや情報共有の仕組みなどについての発表がありました。



開花時期を前に自生地を野焼き

1月25日、国指定の天然記念物「エヒメアヤメ自生南限地帯」で野焼きが行われました。エヒメアヤメを守り育てる会や地元消防団、小林地区建設業協会など約 50 人が参加。3月下旬～4月初旬に開催予定の「エヒメアヤメまつり」に向け、自生環境の整備を行いました。



須木小中学校 PTA が 県社会教育優良団体表彰を受賞

12月18日の県社会教育研究大会で須木小中学校 PTA が県社会教育優良団体表彰を受け、1月23日に報告のため市長を訪問しました。同 PTA は令和元年度に合同 PTA として結成。児童・生徒のいる全世帯が加入し、全員が役割を担う「一世帯一役体制」で行う主体的な活動や地域と連携した活動などが高く評価されました。



柏野勝重会長は「登下校中の子どもたちは皆顔見知り。日常の何気ない会話もできる間柄なのが須木のとても良いところ」と笑顔で話していました

本村信吾新監督のもと飛躍を誓う 宮崎サンシャインズが表敬訪問

1月27日、プロ野球独立リーグ球団「宮崎サンシャインズ」が市長を表敬訪問しました。同球団は野球を通じた地域活性化や NPB（日本野球機構）入りを目指す若者のサポートなどが目的の県民球団で、昨年 11 月には本市出身の元プロ野球選手本村信吾さんが新監督に就任。創設から 3 季目を迎え、「勝ちにこだわる野球」で飛躍を目指します。



本村監督（写真⑥）は「今年は勝ちにこだわる。小林でも試合が行われる予定なので、ぜひ応援をお願いできれば」と新シーズンへの決意を語りました

第21回須木商業まつりを開催

2月2日、「第21回須木商業まつり大抽選会」が須木総合ふるさとセンターで開催されました。地元事業者による特産品販売やステージイベントなどを実施。大抽選会では当選番号が読み上げられるたびに大きな歓声上がるなど、終日大盛況となりました。



南九州駅伝で小林高校Aが4位入賞

2月2日、「第79回南九州駅伝競走大会」が開催されました。えびの市をスタートし都城市にゴールする7区間(61.3km)で競われ、県内外の46チームが出場。本市からは小林ランニングクラブや小林高校が出場し、小林高校Aが4位入賞を果たしました。



霧島岑神社で山内達哉さんによる奉納演奏

2月9日、国内外で活躍するヴァイオリニスト山内達哉さんによる奉納演奏が霧島岑神社でありました(細野まちづくり協議会主催)。演奏には高千穂神社と狭野神社の御神木で作られたヴァイオリンが使用され、参加した約100人は優美な音色に聞き入っていました。



豊かな森林環境を次世代へ

2月15日、松ヶ尾市有林(北西方)で植樹祭が開かれました。北霧島水源の森づくり推進会議(岡本直一郎議長)主催で開かれたもので、市民など約110人が760本の苗木を植栽。参加者はクワやスコップで穴を掘ったあと、丁寧に苗木を植えていました。



若者の政治参加・議員の政策発見へ 高校生が議員の模擬議会開催

2月10日、高校生が議員となり一般質問形式で質問、市議会議員が答弁する「高校生議会」が開かれました。高校生に政治への興味・関心を高めてもらい、交流を通じて議員の新たな政策発見などにつなげようと市議会が初めて企画。市内3校から高校生17人が参加し、にぎわい創出や公共交通、地域医療などについて質問・提案を行いました。



高校生はさまざまな世代が交流できるイベントの開催やごみの分別緩和、公共交通の補助拡充などについて質問。議会の様子は動画などで公開される予定です

「こうのとりのゆりかご」当事者 宮津航一さんが三松中で講演

2月14日、親が育てられない子どもを匿名で預かる「こうのとりのゆりかご(赤ちゃんポスト)」(熊本市)の当事者である宮津航一さんの講演が三松中学校で行われました。宮津さんは生い立ちや里親との関係などに触れながら「家族とは、血のつながりではなく“最期まで味方であること”」と話し、子どもたちに家族との関わり方について伝えました。



3歳の時にゆりかごに預けられた宮津さんは現在、大学3年生。子どもたちの心を満たす居場所を作りたいと、子ども食堂の運営なども行っています

もっとよりよい福祉のまちに 功労者表彰と金婚・米寿祝う

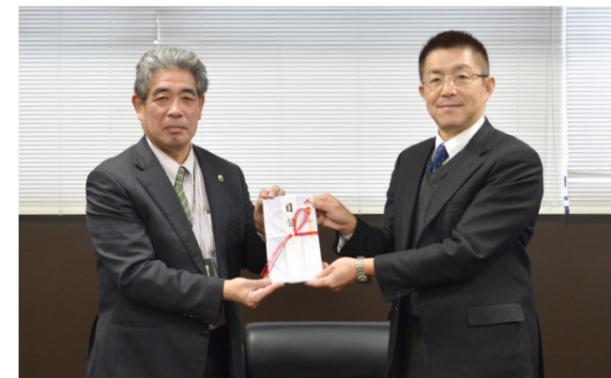
2月7日、地域福祉の向上を目指す「こばやし福祉推進大会」が開催されました。式はさくら保育園園児のかわいらしい歌の披露で開幕し、福祉功労者個人・団体を表彰。金婚夫婦53組、友愛クラブ会員米寿者104人を祝い、三松中学校吹奏楽部の演奏や八重尾輝美さんによる長持唄などの歌唱が披露され、会場を盛り上げました。



福祉功労者表彰受賞者と金婚夫婦、友愛クラブ連合米寿会員を代表して謝辞を述べた、肥後正弘さんと妻のきん子さん(金婚者代表)

サンキョーミート(株)から寄贈の豚肉を 小・中学校の給食で豚汁として提供

市内に食肉加工場をもつサンキョーミート株式会社(金森史浩代表取締役社長)が学校給食用に豚肉92kgを寄贈しました。2月4日に市役所で行われた寄贈式で金森社長は、「地域の発展なくして会社の成長はない。今回提供できて大変うれしい」とあいさつ。寄贈された豚肉は、2月7日に小・中学校21校で豚汁として提供されました。



同社からは学校給食用の豚肉の提供のほか、霧島連山絶景ウオークや霧島連山絶景マラソンでの振る舞いで使用する豚肉も無償で提供いただいています

食を通じて海外の文化や風習を学ぶ 中高生対象の国際交流イベント開催

2月1日、市内の中学生・高校生に海外の文化や風習を知ってもらおうと、中央公民館で国際交流イベントが開かれました。参加者は、中国・ドイツ・アメリカ・モンゴル出身の4人の国際交流員からそれぞれの国の料理を教わったあと、実際に料理を調理・実食。英語などを使って交流を深めながら、海外の食文化などについて学びました。



イベントには、海外の文化や国際交流に興味のある中高生9人が参加。午後からは国際交流員と一緒に小林の食文化について考える時間もありました

持続可能な学校教育のために 小林市の学校の在り方について提言

2月5日、市教育みらい検討委員会(河野康男会長)が市教委に提言書を提出しました。児童生徒数の減少が予想されるものの、小学校では地域で見守られ育つことの重要性を考え現状を維持、中学校では専門性を重視した指導の充実や学習活動の選択肢を確保するには一定の規模を確保する必要があることから、再編を進めることが望ましいことなどが提言されました。



今後、市教育委員会では、令和7年度に保護者や地域住民、児童生徒らと提言を踏まえた意見交換会を実施し、その後、市の方針を決定する予定です